

教材における修正のお知らせ

このたび、最高裁判所の判例変更に伴い、「科目別答練・憲法基礎法学 問題16 肢ア」につきまして、下記の修正がございます。お手数ではございますが、ご修正の上、ご使用くださいますようお願い申し上げます。

問題冊子 問題16 肢ア		
	修正前	修正後
問題文柱書修正	司法権の限界に関する次のア～オの記述のうち、最高裁判所の判例に照らし、妥当なものの組合せはどれか。	司法権の限界に関する次のア～オの記述のうち、最高裁判所の判例に照らし、妥当でないものの組合せはどれか。
解説冊子 問題16		
	修正前	修正後
表紙の正解番号	5	4
P18の正解番号		
肢アの解説修正	ア ○ 地方議会の議員に対する出席停止の懲罰につき判例（市議会議員出席停止事件：最大判令2.11.25）は、出席停止の懲罰は、議会の自律的な権能に基づいてされたものとして、議会に一定の裁量が認められるべきであるものの、裁判所は、常にその適否を判断することができるとして、普通地方公共団体の議会の議員に対する出席停止の懲罰の適否は、司法審査の対象となるとしています。また、地方議会の議員に対する除名処分につき判例（村委会議員出席停止事件：最大判昭35.10.19）は、議員の身分の喪失に関する重大事項で、単なる内部規律の問題に止まらないから、司法審査が及ぶとしています。したがって、除名処分であると出席停止処分であるとを問わず、司法審査の対象となります。	
解説末尾の1文	以上より、妥当でない記述はイ・オとなり、肢4が正解となります。	

以上